

G 2 部 会 の 研 究

主 題

基礎・基本の確実な定着を図るための指導法の改善

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態から

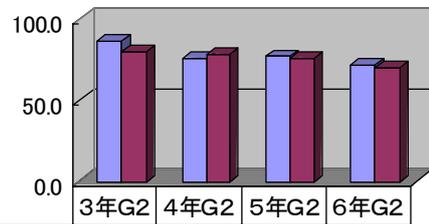
G2グループは、算数に対する興味・関心が高く意欲的に学習に取り組む児童が多い。学習したことを理解する力は持っているが、確実に身につけていない場合も多く、問題を解き進める中で解法を忘れたりケアレスミスを重ねたりすることがしばしば見られる。また、前年度のCRT平均点をみると、全国平均とほぼ同じレベルにあり、ワークテストの年間平均でも学年平均点とおおむね同じであることから、校内外においては平均的な学習グループであるように見える。しかし、見通しをもって筋道立てて考えたり説明したりすることが苦手な児童が多く、数学的な考え方を高めることが課題となっている。また、学習直後の単元テストで比較的得点が高いが、期間をおいた学期末などのまとめのテストでは得点が下がり（特に文章題で顕著）、既習事項が定着しにくい傾向がある。したがって、一度理解した学習事項を確実に定着させることができれば、児童の算数に対する興味・関心が更に高まり、持ち前の計算力を生かしながら筋道を立てて考える力を高めることができると考える。

(2) 学びのタイプから

- 学習ペースに関しては、「ゆっくり勉強することが好き」な児童と「はやいペースで勉強することが好き」な児童が混在している。
- 学び合いに関しては、「友達と考えを出し合うことが好き」な児童が「少し好き」も含めて8割を占めるが、G1・G3と比べるとやや少ない。
- 課題の自力解決に関しては、「自分の力で問題を解くことが好き」な児童が5割以上を占めている反面、「先生や友達に教えてもらうことが好き」な児童も3割近くみられる。
- 問題の難易度に関しては、「できる問題をたくさんすることが好き」な児童が6割を占めるが、「難しい問題に挑戦することが好き」な児童も半数近くみられる。
- 自分の考えの表現方法に関しては、「工夫してノートにまとめることが好き」な児童が半数近くを占めるのに、「自分の考えを発表することが好き」な児童は2割程度にとどまっている。

したがって、個々の学習ペースや課題のレベルを考慮しながら「学び合いの場」「自力解決に導くための支援」「自分の考えを発表へとつなげる支援」を積極的に学習に取り入れていけば、児童の興味・関心を高めながら基礎・基本の確実な定着を図ることができると考える。

算数CRT平均点(2005年2月)

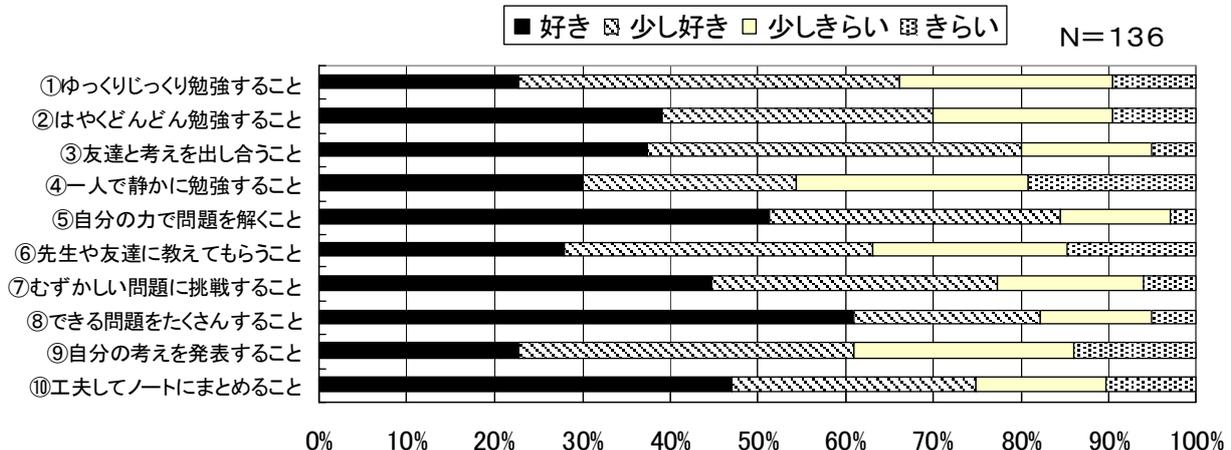


■ 算数CRT平均点	86.4	76.0	77.4	71.2
■ 全国平均点	80.0	78.0	75.2	70.5

以上のことから、G2部会では基礎・基本の確実な定着を重点化するため、本主題を設定した。

※CRTの平均点は、各学年とも前学年の2月に実施した結果である。

G2グループ(3~6年) 学びのタイプ調査結果 (2005. 7)



2 育てたい力

関心・意欲・態度	数学的思考
<ul style="list-style-type: none"> 算数の楽しさやよさを感じながら、進んで学習に取り組むことができる。 既習事項を日常生活の課題解決に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって課題を考えることができる。 複数の解決方法を考えることができる。 自分の考えを筋道立てて説明することができる。
表現・処理	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 計算、作図、測定、表やグラフ化などの作業が丁寧で正確にできる。 正確に問題を処理することができる。 既習事項を生かして、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形について豊かな感覚をもつことができる。 意味や性質を確実に理解できる。 学習事項を定着させることができる。

3 主題に迫る手だて

(1) 指導計画の工夫

①グループの実態に応じた指導計画の作成

- 学習事項を習得する力はあるものの確実に定着していない児童が多いという本グループの傾向を踏まえ、小単元が終わるごとに習熟の時間を設定し、細かなステップで学習状況を把握し確実に定着できるようにする。

②学び直しの時間の設定

- 単元終了後に個に応じて発展学習や補充学習に取り組む時間を設定し、学習内容の定着を図る。

(2) 指導方法及び指導過程の工夫

①課題提示の工夫

- 教科書をベースとして課題を提示する。
- 色分け、数値変換、単位変換等の工夫により、児童が課題をとらえやすいようにする。

②自力解決に導くための工夫

- 学びのタイプに応じてヒントカードを与えたり操作活動をさせたりして、数学的な思考へと導き、自力解決へとつなげていく。
- 解決するための時間を十分に確保する。
- 理解度や処理速度の差に応じたプリントを工夫し、一人一人の学びを保証していく。
- ノートの取り方を身につけさせることで、筋道を立てて考える力や正確に問題を処理する力の素地を養う。(授業の展開が視覚的にとらえられるノート)
- 自分の考えをノートにまとめることで、学び合いにもつなげていけるようにする。(自分の学びを振り返ることができるノート)
- 見直しの観点を確認させ、ケアレスミスに自分で気づいて修正する習慣や力を身につけさせていく。

③児童の考えを生かした学び合いの工夫

- 「学び合い」を段階的に押さえ、互いの考え方の共有化を図れるようにする。
 - *自分の考えが書ける。
 - *自分の考えが発表できる。(友達の考えが聞ける。)
 - *友達の考えと自分の考えのどこがどのように違うかが分かる。
 - *発表を聞いて、感想・意見・質問が言える。

(3) 評価の工夫

①一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

- 座席表を使い、個々の理解度や問題解決の方法を把握し、個に応じた支援を行う。

②学びの振り返り

- 授業後に、気づいたこと、分かったことを含め感想を書かせて、自分の学びの振り返りをさせ、次の時間へつなげていけるようにする。
- プリントやテスト、ノート、発表について記録し累積することで、正確に問題を処理する力や定着状況を評価する。

③学習チェックカードの活用

- 単元終了後に児童に学習状況を自己評価させる。